

## (13)

氏名(生年月日)	ユ 由	リ 里	ツ 樹	オ 生
本籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	乙第1012号			
学位授与の日付	平成元年4月21日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	大腸癌肝転移に対する肝切除後の残肝再発に関する検討			
論文審査委員	(主査) 教授 羽生富士夫 (副査) 教授 浜野 恭一, 白坂 龍曠			

## 論文内容の要旨

## 目的

高率に発生する大腸癌肝転移に対して、最近積極的に肝切除術が行なわれるようになり、大腸癌の治療成績は向上しつつある。しかし、肝切除後に残肝再発をみる例が多く、肝切除術の適応を含め、残肝再発の問題が注目されるようになってきた。そこで残肝再発の有無およびそれに関係すると思われる諸因子について検討し、残肝再発の risk factor を明らかにすることを目的とした。

## 2. 対象および方法

東京女子医大消化器病センターにおいて、肝切除術を施行した大腸癌肝転移、36例を対象とした。このうち、残肝再発を認めなかった群11例、認めた群25例であった。この両群について、残肝再発の因子として、1) 原発大腸癌の脈管(リンパ管、静脈)侵襲、2) 肝切除術の時期、3) H因子(肝転移の程度分類)、4) 主転移巣の大きさ、5) 転移数、6) 手術術式(切除範囲)、7) 肝切除時の肝切離面(以下TW)の癌浸潤、を選定し、比較検討した。

## 結果および考察

1) 原発巣の脈管侵襲の有無と残肝再発の有無とは相関がなかった。

2) 肝切除の時期では、異時性切除(肝転移再発時の切除)例の残肝再発率は、57.9% (11/19)、同時性切除(原発巣切除と同時に肝切除を施行)例の再発率は82.4% (14/17)で、異時性切除の方が、残肝再発を来しにくい傾向にあるといえた。

3) H因子では、H<sub>1</sub>(左葉か右葉のいずれか一方のみに転移がある)例の残肝再発率は57.7% (15/26)、H<sub>2</sub>(両葉にわたって少数散在性に転移がある)の再発率は

100% (10/10)であった。 $\chi^2$ 検定で、有意差(p<0.05)をもって H<sub>1</sub>の例の再発が少なかった。

4) 主転移巣の大きさでは、長径5.0cm以上の再発率84.6% (11/13)、それ以下は60.9% (14./23)で、5.0cm以上のものに残肝再発をみる例が多い傾向にあった。

5) 転移数では、単発群の残肝再発率は55.0% (11/20)、多発群は87.5% (14/16)であり、p<0.1で、単発群に残肝再発の少ない、有意な傾向を認めた。

6) 切除範囲では、小範囲切除群の残肝再発率は55.6% (10/18)、広範囲切除群(葉切除以上)は83.3% (15/18)で、小範囲切除の方が残肝再発の可能性が低いことを示唆した。

7) TW(-)(肝切離面から1cm以内に癌浸潤を認めない)群の残肝再発率は65.5% (19/29)、TW(+)(癌浸潤を認める)群では85.7% (6/7)であった。残肝再発の有無と互いに関与していると考えられた。

残肝再発を少なくするために、肝切除の適応を厳密にする必要がある。しかし再発の発現機序を考えると、残存肝に転移巣があったものと推測されることより、残存肝に対する肝転移診断の重要性が示唆された。また残存肝に対して、肝切除後の積極的な再発防止策の工夫が必要と考えられた。

## 結論

大腸癌肝転移に対する肝切除後、残肝再発を来しにくい条件として、1) 異時性切除例、2) H<sub>1</sub>症例、3) 主転移巣の大きさが5.0cm以下、4) 単発転移例、5) 小範囲切除可能なもの、6) TW(-)であることと結論し得た。

## 論文審査の要旨

大腸癌肝転移例に対する、肝切除術は治療法の一つとして確立している。しかし残肝再発を来す例もまれではない。本論文は、大腸癌転移に対する肝切除例を追跡し、残肝再発について、その有無、原病巣ならびに転移巣の諸因子を検討し、残肝再発を来しにくい条件を明らかにしたもので、臨床上、学術上価値ある論文と認める。

## 主論文公表誌

大腸癌肝転移に対する肝切除後の残肝再発に関する  
検討

日本大腸肛門病学会雑誌 第42巻 第1号  
23-31頁 (1989年1月発行)

## 副論文公表誌

- 1) 超音波検査による原発性肝癌の早期診断  
臨床外科 31 (7) : 913-917, 1976
- 2) 大腸癌肝転移症例に対する治療  
日消外会誌 13 (3) : 232-237, 1980
- 3) 転移性肝癌に対する肝切除術  
日臨外会誌 43 (4) : 354-356, 1982
- 4) 観血的超音波検査—術中超音波検査—  
医学のあゆみ 123 (4) : 343-359, 1982
- 5) 大腸癌転移巣に対する診断と治療  
外科診療 27 (5) : 618-624, 1985

- 6) 治療方針と治療成績の変遷, 結腸癌  
消外セミナー 20 : 177-190, 1985
- 7) 生体画像診断と臨床検査—超音波検査を中心に—  
医科器械学 56 (8) : 381-386, 1986
- 8) 肝転移を伴う直腸癌の治療  
消外 9 (2) : 207-212, 1986
- 9) 腹部集団検診 (特に肝臓集団検診) における超音波検査のあり方と問題点  
日消集検誌・消化器集団検診 72 : 54-61, 1986
- 10) 腹部超音波集団検診における対象臓器に関する検討  
日消集検誌・消化器集団検診 77 : 51-56, 1987